

本資料はアストラゼネカ英国本社が2018年5月18日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先します。

AstraZeneca PLC 2018年第1四半期・通年業績

新薬数製品の有望な上市および業績によりガイダンスを維持

予想通り、製品売上は新薬数製品の堅調な上市および継続的な成長ならびに中国によりプラスの影響を受けましたが、クレストールの売上が減少したことにより相殺されました。全体的なコスト管理において進捗が見られましたが、その一方、社外提携収入の水準、売却時期および上市への投資が業績全体に影響を及ぼしました。患者さんは引き続き当社のパイプラインの進展により恩恵を享受しています。下半期の売上増により通年の製品売上成長を引き続き予想しており、アストラゼネカの計画は達成に向けて順調に進んでいます。

ファイナンシャルサマリー

	2018年第1四半期		
	100万ドル	% 増減 前年同期比	CER ベース ¹
総売上高	5,178	(4)	(9)
製品売上	4,985	3	(2)
社外提携収入	193	(66)	(67)
報告ベース営業利益 ²	696	(24)	(21)
中核営業利益 ³	896	(46)	(47)
報告ベース1株当たり利益 (EPS)	\$0.27	(37)	(29)
中核 EPS	\$0.48	(51)	(51)

- 製品売上は3%増加（CER ベースでは2%減）。中国およびすべての治療領域における新薬の堅調な業績は欧州および日本におけるクレストールの売り上げ減少により相殺。総売上高は、本四半期の社外提携収入の水準を反映し、4%減の51億7,800万ドル（CER ベースでは9%減）。
- 報告ベースの総利益率は、2017年第1四半期に認識された製造分散のプラス影響ならびにリムパーザに関するMSD⁴との契約により5ポイント減の77.3%（CER ベースでは4%減）。中核総利益率は5%減の78.8%（CER ベースでは4%減）。
- 全体的なコスト管理における良好な進捗 - 報告ベース営業費用は変動なしの38億1,700万ドル（CER ベースでは5%減）；中核営業費用は3%増の33億4,900万ドル（CER ベースでは1%減）。報告ベース研究開発費は12%減の12億ドル7,900万ドル（CER ベースでは16%減）；中核研究開発費は経費の効率化により7%減の12億4,000万ドル（CER ベースでは12%減）。報告ベース販売・一般管理費は7%増の24億5,700万ドル（CER ベースでは2%増）；中核販売・一般管理費は中国と新薬上市への投資を反映し11%増の20億2,800万ドル（CER ベースでは6%増）。
- 報告ベースその他営業利益・費用は、訴訟和解金により99%増の4億6,900万ドル（CER ベースでは97%増）；中核その他営業利益・経費は、売却の影響により、63%減の1億2,400万ドル（CER ベースでは64%減）。
- 報告ベース EPS は0.27ドル、中核 EPS は0.48ドル。
- 資本支出は2億1,300万ドルに減少（2017年第1四半期：2億8,600万ドル）。事業再構築費は、想定される通年の減少を反映し、9,500万ドルに減少（2017年第1四半期：3億1,200万ドル）。

- 2018 年度ガイダンスは維持され変動なし。

最高経営責任者（CEO） パスカル・ソリオの業績に関するコメント：

「当社の新世代治療薬数製品の有望な上市および堅調な業績が本四半期の製品売上に大きく貢献し、2018 年に予想されている当社の成長への回帰の地盤が固まりました。本業績は当社の通年予想に沿う内容であり、通年ガイダンスに変更はありません。当社は、オンコロジー領域においてはリムパーザ、タグリツンおよび *Imfinzi*、循環器・腎・代謝（CVRM）領域においてはブリリントおよびフォシーガ（米国商標名 *Farxiga*）に関し優れた結果を達成するとともに、呼吸器領域においてはファセンラの上市を成功させました。中国の売上は引き続き期待を上回り、欧州と日本におけるクレストールの特許期間終了の影響は本年下半期には大幅に減少すると予想しています。

アストラゼネカのパイプラインは引き続き患者さんに有意義な効果をもたらしていますが、直近では、米国においてタグリツンの肺がんへの適応拡大およびリムパーザの乳がんへの適応拡大が承認されました。年末に向けて当社の変革の焦点が商業化へと鮮明化するなか、当社は目標達成を確信しています」。

営業ハイライト

本四半期、新薬数製品⁵により CER ベースで 4 億ドル超の売上が達成されました。製品売上のハイライトは下記の通り：

- オンコロジー：下記を含む売上は本四半期 39% 成長し、12 億 3,000 万ドル（CER ベースでは 33% 増）。
 - リムパーザの売上は、米国の薬事承認にけん引され、109% 増の 1 億 1,900 万ドル（CER ベースでは 100% 増）。
 - タグリツンの売上は、EGFR⁶ T790M 変異陽性⁷ 非小細胞肺がん⁸（NSCLC）の 2 次治療における新たな標準治療としての成長を反映し、98% 増の 11 億 900 万ドル（CER ベースでは 89% 増）。米国では 2018 年 4 月に 1 次治療として承認。
 - *Imfinzi* の売上は、切除不能ステージ III NSCLC の治療薬としての最近の米国での承認により、6,200 万ドル（2017 年度：1,900 万ドル）。
- New CVRM⁹：下記を含む売上は 13% 成長し、9 億ドル（CER ベースでは 8% 増）。
 - ブリリントの売上は、急性冠症候群（ACS）とハイリスク陳旧性心筋梗塞（HR PMI）の継続的な市場への浸透により、31% 増の 2 億 9,300 万ドル（CER ベースでは 24% 増）。
 - フォシーガ/*Farxiga* の売上は、同剤が数量ベースで引き続き市場を主導した結果、44% 増の 2 億 9,900 万ドル（CER ベースでは 39% 増）。
 - ビデュリオンの売上は 9% 減の 1 億 3,900 万ドル（CER ベースでは 11% 減）。新規の BCise デバイスの上市は好調なものの、厳しい米国の価格圧力のインパクトが上回りました。
- 呼吸器：下記を含む売上は増減なしの 11 億 8,100 万ドル（CER ベースでは 6% 減）：
 - シムビコート¹⁰の売上は、米国の競合クラスの圧力が継続した結果、6% 減の 6 億 3,400 万ドル（CER ベースでは 12% 減）。
 - パルミコート¹¹の売上は、2017 年第 4 四半期の中国の需要増および中国の供給遅延を反映し、3% 増の 3 億 4,600 万ドル（CER ベースでは 3% 減）。

- ファセンラの売上は 2,100 万ドル。特に米国とドイツでの堅調な上市と立ち上がり。
- 新興市場: 下記を含む製品売上が最大の地域の売上は 13% 増の 17 億 6,500 万ドル (CER ベースでは 8% 増):
 - 中国の売上は 31% 増の 10 億 2,500 万ドル (CER ベースでは 22% 増)。タグリツンの上市に支えられ、10 億ドルを超える四半期売上を初めて達成。
 - 中国以外の売上は 5% 減の 7 億 4,000 万ドル (CER ベースでは 7% 減)。売却製品の売上およびロシアの売上が 38% 減少し 3,400 万ドル (CER ベースでは 40% 減) となったことの影響が堅調な業績を上回る。

下記の表は前回業績発表以降の後期段階パイプラインの重要な展開を示すものです。

薬事承認	<ul style="list-style-type: none"> - リムパーザ – 卵巣がん (2 次治療; 錠剤) (EU) - タグリツン – 肺がん (1 次治療) (米国) - Imfinzi – 肺がん (ステージ III) (米国) - Lokelma (ZS-9) – 高カリウム血症 (EU)
薬事承認申請 および・または 受理	<ul style="list-style-type: none"> - リムパーザ – 乳がん (EU) - moxetumomab pasudotox – 有毛細胞白血病 (3 次治療) (米国) - フォシーガ – 1 型糖尿病 (EU)
主な第 III 相データ Readouts またはそ の他の主な展開	<ul style="list-style-type: none"> - タグリツン – 肺がん (1 次治療) – 優先審査指定 (日本) - Imfinzi + treme – 肺がん (3 次治療) (ARCTIC 試験) – PDL1 低発現・陰性患者さんにおける主要評価項目は未達 - moxetumomab pasudotox – 有毛細胞白血病 (3 次療法) – 優先審査 (米国) - selumetinib – 神経線維腫症 1 型 (NF1) – 希少疾病用医薬品指定 (米国) - ファセンラ – COPD (GALATHEA 試験) – 主要評価項目未達

ガイダンス

2018 年度のガイダンスは維持され、変更はありません。本セクションの全ての数字は恒常為替レートに基づくものです。当社は製品売上および中核 EPS に関してのみガイダンスを提示します。

製品売上	1 桁台前半から半ばの増加
中核 EPS	3.30 ドル ~ 3.50 ドル

上記製品売上の成長は主に年度の下半期に発生すると予想されます。これは、欧州と日本におけるクレストロールに関する後発品との競合の影響が継続していること、および新薬数製品の貢献が増加し続けることを反映しています。

四半期毎の業績の変動は継続すると予想されます。買収関連債務により生じる公正価格調整、無形資産減損費用および訴訟和解引当金を含む報告・GAAP ベースの結果の重要な要素を正確に予測することはできませんので、報告・GAAP ベースのガイダンスを提供することは不

可能です。英語原文発表の末尾にある「将来予想に関する記述についての警告文」をご参照ください。

追加解説

上記ガイダンスに加えて、当社は、本日、前年度比の 2018 年度の追加指標を再度提示しました。

- 社外提携収入およびその他営業収入は 2017 年度との比較で減少すると予想されます。長期成長戦略の一環として、当社はパイプラインの継続的生産性を反映する現金創出および価値増大に資する適切な社外提携活動に注力し続けていきます。また、当社は売却を通じたポートフォリオ管理の継続および経時的な 3 つの主要治療領域への焦点の強化に注力しています。
- 2018 年度の中核研究開発費は 1 桁台前半の減少から変動なしの幅に収斂すると予想されます。この予想には MSD との提携による開発コストへのプラス影響が含まれます。
- 当社は、事業運営およびインフラ費用削減への注力を維持します。しかし、2018 年度の総中核販売・一般管理費は、がん領域の *Imfinzi* および呼吸器領域の *ファセンラ* などの上市支援に焦点を絞った経費を反映し、1 桁台の前半から半ばの増加が見込まれます。また、当社は事業再構築費の対前年度比での減少を予想しています。
- 中核税率は 16-20% (2017 年度: 14%)。

為替の影響

2018 年 3 月 31 日までの 3 カ月の平均為替レートおよび当社が発表した為替感度のみに基づき、2018 年度は、製品売上および中核 EPS に対し 1 桁台前半のプラス影響が予想されます。為替感度の更なる詳細は英語原文発表の営業・ファイナンシャルレビューの項に示されています。

持続可能性

アストラゼネカは長期的に株主の皆様の貴重な信頼されるパートナーとなることに注力しています。堅調なビジネスの維持と、公平、安全および健全な世界に良い影響を与えることは明らかな関係性があります。アストラゼネカは世界中の患者さんの人生を変えるような持続可能な医療を提供するためにサイエンスの限界に挑んでいます。

アストラゼネカの持続可能性に関する意欲的な目標は、サイエンスのアクセスを可能にするとともにビジネスの成長、社会のニーズおよび地球の限界の相互関連性を理解し、事業活動を実践することを基礎としています。当社の持続可能性に関する意欲的な目標は当社のビジネスモデルに本来備わっている共通の目的と行動指針（バリュー）により強化され、その戦略の実行により医薬品へのアクセスを拡大し、医薬品およびプロセスの環境的影響を最小化し、すべての事業活動が最高水準の倫理と透明性によって支持されていることを担保します。

当社の持続可能性に関する進捗については英語原文書に示されています。

注：

下記の注釈は 1 ページから 2 ページに関するものです。

1. 恒常為替レート：これらは報告ベースの結果から為替変動の影響を除外しているため GAAP とは異なる指標です。
2. 報告ベースの財務指標は IFRS に準拠して提示された財務業績です。
3. 中核財務指標：これらは報告ベースの業績とは異なり、グループの財務諸表にある情報から直接算出できないため GAAP とは異なる指標です。中核財務指標および中核ベースから報告ベースへの財務指標の調整の定義は、英語原文発表の営業・ファイナンシャルレビューを参照ください。
4. 北米以外では MSD として知られる米国ニュージャージー州ケニワースを拠点とするメルク社
5. ここでは、*リムパーザ*、*タグリツ*、*Imfinzi*、*Calquence*、*ブリリンタ*、*フォシーガ*/*Farxiga*、*Lokelma*、*Bevespi* および *ファセンラ*
6. 上皮成長因子受容体
7. エクソン 20 の 790 番目のアミノ酸トレオニンのメチオニンによる置換変異
8. 非小細胞肺癌

9. New Cardiovascular, Renal and Metabolism（循環器・腎・代謝疾患）領域にはブリリントおよび糖尿病治療薬、*Lokelma*が含まれます。

別段の記載がない限り、本発表文書に示された業績は2017年3月31日までの3カ月間（前四半期または2017年第1四半期）との比較で2018年3月31日までの3カ月間（本四半期または2018年第1四半期）に関する業績です。

パイプライン：予定されている主なニュース

イノベーションはアンメット・メディカルニーズへの対応に不可欠であり、当社の成長戦略の中心にあります。研究開発への集中はパイプラインの強い結果を生み出すことを目的としています。

2018年 第2 四半期	<p><i>リムパーザ</i> – 乳がん：規制当局判断（日本） <i>リムパーザ</i> – 卵巣がん（1次治療）：データ readout¹ <i>タグリツソ</i> – 肺がん：規制当局判断（EU）</p> <p><i>Lokelma</i> – 高カリウム血症：規制当局判断（米国）</p> <p><i>フォシーガ</i> – 1型糖尿病：薬事承認申請（日本） <i>Duaklir</i> – COPD：薬事承認申請（米国） <i>ファセンラ</i> – COPD（TERRANOVA試験）：データ readout</p>
2018年 下半期	<p><i>リムパーザ</i> – 卵巣がん（1次治療）：薬事承認申請 <i>タグリツソ</i> – 肺がん：規制当局判断（日本）</p> <p><i>Imfinzi</i> – 肺がん（ステージ III）：規制当局判断（EU, 日本） <i>Imfinzi +/- tremelimumab</i> – 肺がん（1次治療）（MYSTIC試験）：データ readout（最終 OS²）、薬事承認申請 <i>Imfinzi +/- tremelimumab</i> – 頭頸部がん（1次治療）（KESTREL試験）：データ readout <i>Imfinzi +/- tremelimumab</i> – 頭頸部がん（2次治療）（EAGLE試験）：データ readout、薬事承認申請</p> <p><i>selumetinib</i> – 甲状腺がん：データ readout、薬事承認申請 <i>moxetumomab pasudotox</i> – 多毛細胞白血病（3次治療）：規制当局判断（米国）</p> <p><i>フォシーガ/Farxiga</i> – 2型糖尿病（DECLARE試験）：データ readout <i>ビデュリオン オートインジェクタ</i> – 2型糖尿病：規制当局判断（EU） <i>roxadustat</i> – 腎性貧血：データ readout</p> <p><i>Bevespi</i> – COPD：規制当局判断（EU） <i>Bevespi</i> – COPD：薬事承認申請（日本） PT010 – COPD：薬事承認申請 <i>ファセンラ</i> – COPD：薬事承認申請</p> <p><i>anifrolumab</i> – 狼瘡：データ readout</p>

¹ このセクションでの“データは第III相データ readout を指します

² 全生存期間

2019 年	<p>リムパーザ – 乳がん：規制当局判断（EU） リムパーザ – 膵臓がん：データ readout、薬事承認申請</p> <p>Imfinzi – 肺がん（PACIFIC 試験）：データ readout（最終 OS） Imfinzi +/- treme – 頭頸部がん（1 次治療）（KESTREL 試験）：薬事承認申請 Imfinzi + treme – 肺がん（NEPTUNE 試験）：データ readout、薬事承認申請 Imfinzi +/- treme – 肺がん（POSEIDON 試験）：データ readout、薬事承認申請 Imfinzi +/- treme – 小細胞肺がん（CASPIAN 試験）：データ readout、薬事承認申請 Imfinzi +/- treme – 膀胱がん（DANUBE 試験）：データ readout、薬事承認申請</p> <p>Calquence – 慢性リンパ球性白血病（CLL）：データ readout、薬事承認申請</p> <p>ブリリント – 冠動脈疾患（CAD） / 2 型糖尿病：データ readout、薬事承認申請 フォシーガ/Farxiga – 2 型糖尿病（DECLARE 試験）：薬事承認申請 フォシーガ/Farxiga – 心不全：データ readout roxadustat – 腎性貧血：薬事承認申請（米国）</p> <p>anifrolumab – 狼瘡：薬事承認申請 lanabecestat – アルツハイマー病：データ readout</p>

コンファレンスコール

当社経営陣主催の投資家およびアナリスト向けのコンファレンスコールおよびウェブキャストを英国時間 5 月 18 日に開催しました。詳細は www.astrazeneca.com/investors からアクセス可能です。

業績発表日程

当社は 2018 年 7 月 26 日木曜日に上半期・第 2 四半期財務業績を発表する予定です。

製品売上高

主要医薬品の業績を以下に示します。地域別業績は次ページに示しています。

治療領域	製品	Q1 2018 年第 1 四半期			
		100 万 ドル	売上 比率% ¹	% 増減	
				実質	CER
オンコロジー	タグリッソ	338	7	98	89
	イレッサ	132	3	6	(1)
	リムパーザ	119	2	109	100
	Imfinzi	62	1	n/m	n/m
	Calquence	8	-	n/m	n/m
	Legacy				
	フェソロデックス	254	5	19	14
	ゾラデックス	184	4	(1)	(6)
	アリミデックス	54	1	4	(2)
	カソデックス	52	1	(7)	(13)
	その他	27	1	4	(4)
	オンコロジー合計	1,230	25	39	33
CVRM	ブリリント	293	6	31	24

治療領域	製品	Q1 2018 年第 1 四半期			
		100 万 ドル	売上 比率% ¹	% 増減	
				実質	CER
治療領域	フォシーガ/Farxiga	299	6	44	39
	オングリザ	129	3	(16)	(19)
	ビデュリオン	139	3	(9)	(11)
	バイエッタ	31	1	(33)	(35)
	Symlyn	9	-	(36)	(36)
	Legacy				
	クレストール	389	8	(38)	(42)
	セロケン/Toprol-XL	200	4	8	3
	アタカンド	71	1	(5)	(9)
	その他	85	2	(4)	(10)
	CVRM 合計	1,645	33	(8)	(12)
呼吸器	シムビコート	634	13	(6)	(12)
	パルミコート	346	7	3	(3)
	Daliresp/Daxas	38	1	(14)	(16)
	Tudorza/Eklira	34	1	(8)	(16)
	Duaklir	28	1	47	26
	ファセンラ	21	-	n/m	n/m
	Bevespi	5	-	n/m	n/m
	その他	75	2	12	3
	呼吸器合計	1,181	24	-	(6)
その他	ネキシウム	448	9	(3)	(7)
	シナジス	224	4	(3)	(3)
	Losec/Prilosec (オメプラール)	69	1	1	(6)
	セロクエル XR	53	1	(21)	(25)
	Movantik/Moventig	28	1	(7)	(7)
	その他	107	2	(25)	(29)
	その他合計	929	19	(7)	(10)
	製品売上合計	4,985	100	3	(2)

地域別製品売上高

	Q1 2018 年第 1 四半期			
	100 万ドル	対総売上比率 (%) ¹	増減 (%)	
			実質	CER
新興市場 ²	1,765	35	13	8
中国	1,025	21	31	22
中国以外	740	15	(5)	(7)
米国	1,487	30	-	-
ヨーロッパ	1,121	22	(1)	(12)
ROW の既成市場	612	12	(8)	(12)

日本	399	8	(11)	(15)
カナダ ¹	126	3	1	(4)
その他 ROW 既成市場	87	2	(5)	(10)
合計	4,985	100	3	(2)

¹ 四捨五入により個々の比率は合計と一致しない場合があります。

² 新興市場を構成するのは、ブラジル、中国、インド、メキシコ、ロシア、およびトルコを含む既成市場以外の ROW 地域です。

新興市場

製品売上は 13%増の 17 億 6,500 万ドル（CER ベースでは 8%増）

中国の売上は 31%伸長し 10 億 2,500 万ドル（CER ベースでは 22%増）となり、新興市場売上全体の 58%を占めました。2017 年に、ブリリンタ、フェソロデックスおよびセロクエル XR と同様にオングリザおよびイレッサが中国の償還医薬品リストに掲載されました。この掲載による恩恵は 2018 年度の製品売上に良好な影響を与えると予想されます。クレストールも同時に 2 次治療としての使用の制限が解除され、ゾラデックスはホルモン・内分泌剤から抗がん剤へとその分類が変更され、引き続き成長を支持すると期待されています。タグリツソは中国で 2017 年早期に発売されました。

一方、中国を除く新興市場の売上は 2018 年第 1 四半期に 5% 減少しました（CER ベースでは 7%減）。この減少は、一部前述の社外提携あるいは売却された製品の売上の影響によるものですが、2017 年の医療費抑制における政府の介入の影響によりロシアの売上が 38%減の 3,400 万ドルに減少（CER ベースでは 40%減）したこともその原因です。

米国

製品売上は 14 億 8,700 万ドル；増減なし

本四半期の業績は、タグリツソと *Imfinzi* を含む抗がん剤の上市の成功および *Farxiga* とブリリンタの堅調な売上が反映していますが、それらは売上が 28%減少して 1 億 8,300 万ドルに落ち込んだシムビコートに対する継続する熾烈な競合の影響により相殺されました。不利なマネジドケアの価格設定および後発品の上市も米国全体の売上にもマイナス影響を与えました。米国のオンコロジーの利上げは、主にタグリツソの売上が 63%増加して 1 億 4,700 万ドルへと成長したことにけん引され、69%伸長し 4 億 2,600 万ドルでした。

ヨーロッパ

製品売上は 1%減の 11 億 2,100 万ドル（CER ベースでは 12%減）

クレストールの売上は 2017 年に様々な市場での後発品が参入したことを反映し、67%減少し、6,500 万ドルに低下しました（CER ベースでは 70%減）。クレストールの売上を除くヨーロッパの売上は 13%増の 10 億 5,600 万ドルでした（CER ベースでは増減なし）。

新薬数製品は本四半期に有望な業績を達成しました。ヨーロッパのオンコロジーの売上は一部タグリツソの売上が 97%伸びて 6,900 万ドルに増加（CER ベースでは 74%増）したことを受けて、33%増の 2 億 4,900 万ドルでした（CER ベースでは 18%増）。リムパーザの売上は 68%伸びて 4,200 万ドルでした（CER ベースでは 44%増）。*Brilique* の売上は 32%増の 8,600 万ドル（CER ベースでは 15%増）、*フォシーガ* の売上は 48%増の 7,400 万ドルでした（CER ベースでは 30%増）。

ROW の既成市場

製品売上は 8%減の 6 億 1,200 万ドル (CER ベースでは 12%減)

日本の売上は、11%減少し 3 億 9,900 万ドルでした (CER ベースでは 15%減)。クレストールの最初の後発品は日本で 2017 年第 3 四半期に発売され、その後の後発品も第 4 四半期に市場に参入しました。日本におけるクレストールの売上は 76%減少し 2,100 万ドルでした (CER ベースでは 77%減)。クレストールを除く日本の売上は 9%伸びて 3 億 7,300 万ドルでした (CER ベースでは 5%増)。

他の地域でも見られるように、新薬数製品が本四半期に有望な業績を達成しました。日本のタグリツンの売上は需要の増加により、26%増の 4,900 万ドルでした (CER ベースでは 21%増)。しかし、前四半期との比較ではタグリツンの売上は 2017 年第 4 四半期の 6,100 万ドルから減少しました。これには、T790M 検査の受診率が約 90%から 2018 年第 1 四半期には約 70%に低下したことが影響しています。2017 年 7 月に、T790M 血漿検査が保険適用され、主に後期ライン治療の患者さんの診断薬として適応されたことを受け、当社による T790M 血漿検査結果の倫理的無償提供を終了しました。2018 年下半期には、EGFR 変異陽性の NSCLC 患者の 1 次治療を対象とした適応について規制当局の判断が予定されています。

日本のフェソロデックスの売上は 2017 年に承認された新たな適応により良い影響を受け、50%増の 2,100 万ドルでした (CER ベースでは 43%増)。

2018 年 1 月 19 日、当社は BRCA 遺伝子変異の有無を問わず、プラチナ製剤感受性再発卵巣がん患者さんの維持療法としてリムパーザ錠が日本で承認されたことを発表し、同剤は 2018 年 4 月に発売されました。乳がん治療薬としてのリムパーザに関する規制当局の判断は本年下半期と予想されます。

日本の隔年の薬価改定は 2018 年 4 月 1 日に実施されました。

アストラゼネカについて

アストラゼネカは、サイエンス志向のグローバルなバイオ・医薬品企業であり、主にオンコロジー、CVRM (循環器・腎・代謝疾患)、呼吸器の 3 つの重点領域において、医療用医薬品の創薬、開発、製造およびマーケティング・営業活動に従事しています。また、自己免疫、ニューロサイエンスおよび感染症の領域においても、他社との提携を通じて積極的に活動しています。当社は、100 カ国以上で事業を展開しており、その革新的な医薬品は世界中で多くの患者さんに使用されています。詳細については <http://www.astrazeneca.com> または、ツイッター@AstraZeneca (英語のみ) をフォローしてご覧ください。

日本においては、主にオンコロジー、循環器・代謝疾患、呼吸器・自己免疫疾患を重点領域として患者さんの健康と医療の発展への更なる貢献を果たすべく活動しています。当社については <http://www.astrazeneca.co.jp> をご覧ください。